

羽 沢

令和2年7月31日
横浜市立羽沢小学校
学校長 田屋 多恵子

(E) 笑顔いっぱい (S) 健やかいっぱい (D) 大好き羽沢の人とまち

羽沢小学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hazawa/>



羽沢小学校のはじまり

校長 田屋多恵子

いつもより短い夏休みが始まります。6月に学校が再開してから2か月、保護者の皆様や地域の方々にご理解とご協力をいただき、ここまでなんとか無事に過ごしてまいりました。8月1日～8月16日までの2週間、健康に気を付けてご家族で少しゆっくり過ごせる夏休みになるとよいと考えています。

さて、先月号では、今年が羽沢小学校創立50周年の年であることに触れましたが、航空写真の撮影も無事に終わり、羽沢小の校章をデザインした素敵な航空写真が出来上がりました。また子どもたちも代表委員会でキャラクターについての考えをまとめ、全校にアイデアを募集します。どんなキャラクターになるのかとても楽しみです。

先日、「菅田物語」という菅田地区自治連合会や菅田のむかしを語る会が編集して作ってくださった本を前菅田連合会長の元田さんが40冊羽沢小学校に持ってきてくださいました。その表紙には、「一菅田の百年に学び 菅田に生きる一菅田の未来を拓く」と素敵な言葉が載っています。さっそく6年生にまず見せて読んでもらったらと考えました。題名は「菅田物語」ですが、羽沢小学校ができたころのことも載っています。

「菅田物語」より一羽沢小学校と菅田小学校一

昭和46年5月1日に池上小学校の校庭でお別れ式をすませると、羽沢小学校の一年生から四年生までは新設の羽沢小学校へ向かいました。池上小学校の校門を出て階段を降り、池上橋を渡り、相鉄バスの道を横切って、雑木林や野原の中の細い道を一列になって羽沢小学校へ向かいました。この時はまだ埋め立て直前で、野原のあぜ道の途中には小川が流れていて、まさに唱歌「春の小川」の風景でした。羽沢小学校に着いてみると、まだ校庭がデコボコで地ならしのブルドーザーが動いていました。教室も半分は未完成で、職員室も1階の西はずれの教室に仮住まいです。開校のセレモニーは一階の理科室で行いました。教室が足りないため、五・六年生は池上小学校に残りましたので、一年から六年までの全学年が揃ったのはそれから二年経ってからでした。

校舎が完成せずに、初めは一年生から四年生だけで羽沢小学校がスタートしたとは驚きです。また、池上小学校から羽沢小学校の途中には、野原の中に小川が流れていたところを想像してみるとのどかな美しい風景が目の前に浮かびます。現在の羽沢小学校になるまでにはどんなことがあったのでしょうか。これから4ヶ月、昔のことを知っている地域の方に教えていただき、羽沢小の歴史にまつわることを学校だよりに掲載していきたいと思えます。

<お願い>

十分な睡眠をとって健康に過ごせるようにしましょう。お子様やご家族が、新型コロナウイルス感染症と診断された場合、濃厚接触者として経過観察を指示された場合、新型コロナウイルス感染症の検査（PCR検査など）を受けた場合は学校に連絡をお願い致します。

羽沢小学校 ☎ 383-1909

※8月1日～16日は東部学校教育事務所に緊急連絡としてご連絡をお願いいたします。

時間は8:30～17:15となっております。東部学校教育事務所 ☎ 411-0608